

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 31, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2025



ハコネサンショウウオの 成体(雄)

Onychodactylus japonicus
(Houttuyn, 1782)

2025年5月8日撮影

まつもと りょうこ
松本 涼子 (学芸員)

ハコネサンショウウオは、1776年にスウェーデンの植物学者であるツェンベリー (C. P. Thunberg) が箱根で採集した標本をもとに学名が命名されたことから、箱根は基産地として知られています。現在では、箱根山地を流れる須雲川上流に生息するハコネサンショウウオは、箱根町指定の天然記念物となっています。箱根町役場が中心となり、毎年産卵期に近い5月上旬に生息状況を確認するための調査が行われています。水温10～12℃の河川の水底の石を

そっとめくると、全長30～90 mmの幼生が姿を現します。近年、須雲川上流でシカの増加により採食圧が高くなりました。河川の脇に生える下草は食べ尽くされ、土砂が河川に流入したことから、川底に^{はま}嵌り込んだ石が多く、幼体の隠れる場所が減少しているのではないかと気がかりでした。幸い、今年度の調査では幼体に加え、河川脇のガレ場の石の下からは成体が確認されました。今後に変化する河川と周辺環境をモニタリングする必要があります。

「初三郎式、かながわの描き方」にぼれ話

に い だ しゅういち
新井田 秀一(学芸員)

はじめに

神奈川県立生命の星・地球博物館(以下、当館)では、2025年7月から特別展「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」を開催しています。ここでは、特別展の概要を紹介するとともに、展示のこぼれ話も紹介します。

特別展の概要

今回の特別展は、今まで行ってきた鳥瞰図ちようかんずに関する研究の成果をまとめたものです(例えば、新井田・武田, 2024)。タイトルにある「初三郎式」とは、大正から昭和初期にかけて活躍した画家、吉田初三郎やその弟子たちが描いた鳥瞰図の持つ独特の画風を指します。吉田初三郎の描く鳥瞰図は、地域の姿を伝えるメディアとして関心が高まっています(昭文社編, 2021)。本展では「神奈川県鳥瞰図」をはじめとして、県内各地を鳥瞰図で紹介します。さらに

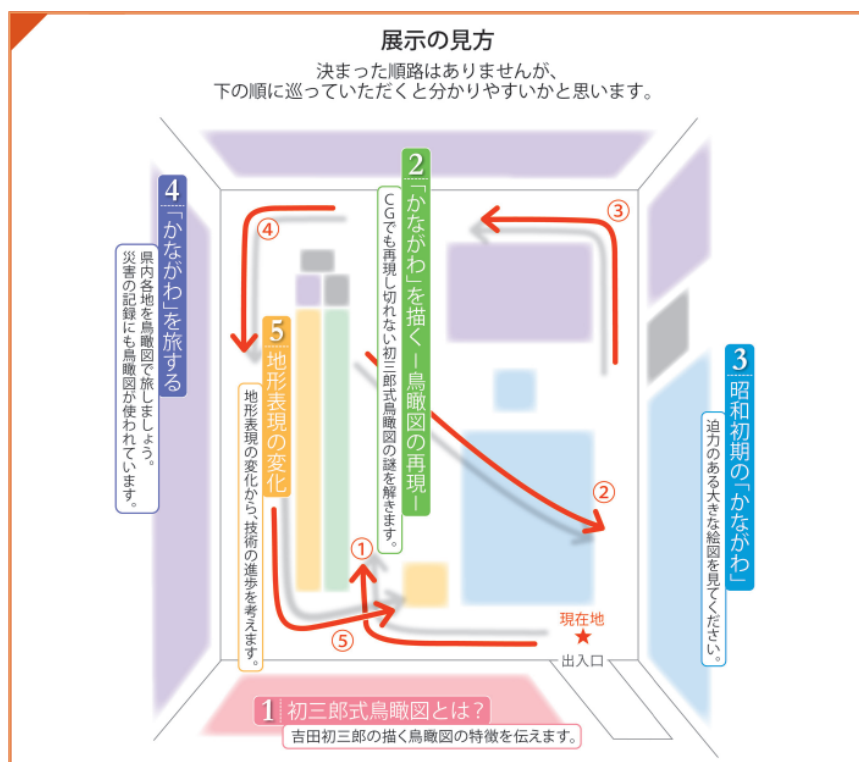


図3. 案内図「展示の見方」。



図1. 展示室内「神奈川県鳥瞰図」と床貼り地形図・地形模型。



図2. 鳥瞰ポイントを示すサイン越しに見た地形模型。

飛行機での移動が自由ではなかった時代に、このような絵図をどのように描いたのか、自然科学的な視点で解説します。

今回の展示点数は、肉筆画4点、肉筆画の実寸出力3点、絵図46点、書籍4点、絵葉書1点、地図8点、CG6点、模型1点、PC1点の計74点です。

展示プランの悩み その1

一番大きな展示物は、横幅4 mの吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」と床に貼った3×3.7 mの地形図『昭和10年頃の「かながわ」』です。どちらも平面的な展示物です。地図から地形を読み取ることを苦手になっている方は多いと思います。そこで地形を直接、立体的に認識できる資料として、「25万分1地形模型」を用意しました。展示空間を構成する意図として、この3点を組み合わせ、同時に見比べることを優先した配置を検討しました。

「神奈川県鳥瞰図」はケース内に展示することを考えましたが、一番大きな展示ケースでも幅2.5 mしかありません。そのため、特別展示室の壁面に露出して

展示することにしました。鳥瞰図には右側にタイトルがあることから、左回りの順路とし、展示室に入って右側の壁面に掲示しました。そして、鳥瞰図に正対した床面に、地形図と地形模型を配しました(図1)。

「神奈川県鳥瞰図」は、神奈川県立歴史博物館の所蔵する肉筆画を富士ゼロックス神奈川株式会社がデジタル化したものを、当館で不燃性の布地に出力しました。地形図『昭和10年頃の「かながわ」』は、土足で踏んでも大丈夫なように表面を艶消しコーティングしたものを床に貼り付けました。「25万分1地形模型」は台の上に露出で展示しましたが、製造後30年以上経過し素材の劣化が気になるため、周囲にバリアを設置し、「触らないで」というサインを表示しました。

さらに地形模型は、鳥瞰図を自分自身で再現する(地形を覗き込む)ことでの活用を意図しています。そこで「ここから見ると『神奈川県鳥瞰図』のように見える」などといった覗き込みポイントを示すパネルを掲示しました(図2)。



図4. キャスター付ルーペ「大きく見えるくん」とその駐車スペース。

展示プランの悩み その2

メインとなる展示配置は定まったのですが、今回数多く用意した鳥瞰図の配置が次の課題です。神奈川県内の観光地について明治から昭和初期に制作された鳥瞰図の印刷物(実物)を集めました。特に吉田初三郎・作「箱根名所図会」は、箱根湯本にある萬翠楼福住・所蔵の原画の複製1点をはじめ、大正から昭和初期にかけて印刷された出版物(11点)を揃えたことも展示の目玉です。初三郎の生い立ちや鳥瞰図の構図解析などの解説を動線の始めの方に入れる必要があり、展示ケースの大きさを考慮しながら配置していったため、展示動線を単純な一筆書きにできなくなっていました。

展示の内容としては、どこから見ても分かるようにケースごとに独立していますが、展示コーナーの章立ては番号付きとなっています。

そこで展示動線を示すために「展示の見方」を作りました(図3)。この図は、展示室をその真上から見ているような構図にしています。特別展をご覧いただく際には、ぜひとも活用していただきたいと思います。

床貼り地図の工夫

床貼り地形図『昭和10年頃の「かながわ」』は、「神奈川県鳥瞰図」が制作された時代を知るために、同じ時代に作成された5万分1地形図を連結しました。神奈川県内は時期を揃えることができましたが、東京や千葉にまたがるエリアは大正期や戦後のものも混じっています。

地形図は、床に貼ってしまうと目からの距離が離れ読みづらくなるため、2倍に拡大しました。そのため、縮尺は2万5千

分1に相当します。これだけではまだ文字が小さく感じたため、約2倍に拡大できるキャスター付ルーペ「大きく見えるくん」を用意しました(図4)。

これは2004年度企画展「+2℃の世界縄文時代に見る地球温暖化」の際に、海岸線の時代変遷を示した床貼り地図を見るために職員が製作したものが原型です。今回、光源を豆電球からLEDに、電源も単一乾電池8本からモバイルバッテリーにリニューアルしました。外見も地形図や鳥瞰図によってきれいに飾り付けしました。この作業もボランティアの方々に協力していただきました。

このようなキャスターのある展示器具は、予想以上に移動してしまうことがあるため、駐車場マークを床に設置して、定位置に戻すことを使用した方に意識してもらえるようにしました。

現在の地形図の原型は、箱根から

もう一つ展示している床貼り地形図「明治20年頃の西湘」は、2万分1地形図を連結したものです。紹介するのは明治21(1888)年に作られた「箱根驛」です(図5)。測量・地図百年史(1975)には、「明治18(1885)年に三角測量及び水準測量の測量成果に基づいて、神奈川県「箱根」付近から全国的規模をもって、2万分1の縮尺で地形測量を開始し、大正元年に至って一連の測図を終了している」とあります。これが「正式二万分一地形図」と呼ばれるものです。箱根周辺の地形図は、陸地測量部沿革誌(1922)の附図「製版進程」によれば、明治20~22年に製版されていたとあります。

この地形図は、多面体投影図法により緯度6分、経度4分で区切られた横型の地図です。さらにはグリニッジを基準とした経緯度が採用されていることから、現在に繋がる地形図の原型といえます。

連結した地形図のうち、「佐野」「三島」は、図式が変更されたのか等高線間隔が異なっています(5 mごとに細線・20 mごとに太線から、10 mごとに細線・50 mごとに太線へ)。そのためか、地形表現の印象が違ってきます(図6)。

おわりに

特別展「初三郎式、かながわの描き方

ー地形表現の科学ー」は、2025年11月9日まで開催しています。この記事を見て、関心を持たれましたら是非ともご来館をお待ちしています。

なお、この研究はJSPS 科研費19K01149、19K13451、23K00965の助成を受けて実施しました。

参考文献

- 昭文社編, 岡田直解説 2021.『吉田初三郎 鳥瞰図集』, 昭文社.
測量・地図百年史編集委員会 編, 1970. 測量・地図百年史. 社団法人日本測量協会.
新井田秀一・武田周一郎, 2024. 吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」の構図をCGで再現する. 日本地図学会2024年度定期大会予稿集.
陸地測量部 編, 1922. 陸地測量部沿革誌附図. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/965770> (参照 2024-05-08).

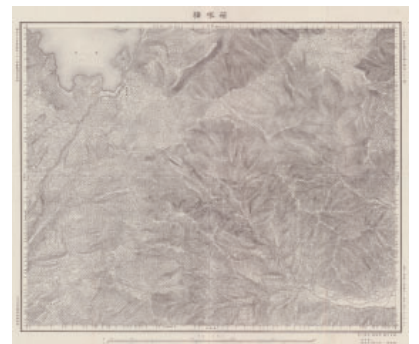


図5. 2万分1地形図「箱根驛」KPM-NZA000001.



図6. 床貼り地形図「明治20年ごろの西湘」より山伏峠付近(上:「神山村」・下:「佐野」の連結)。

世界のトリュフと日本のトリュフ、それらの採集の心得

おりはら たかみち
折原 貴道(学芸員)

トリュフといえば、その独特の香りから、フォアグラ、キャビアと並ぶ世界三大珍味の一つとされるきのことして知られていますが、あまり馴染みのない海外の食材という印象があるかもしれません。しかし、実は日本にも多数のトリュフ類が自生しており、意外に身近な存在でもあるのです。ここでは、そんな「トリュフ」をめぐる最近の動向を見ていきます。

トリュフのいろは

「トリュフ」とは、地中にきのこ(子実体)をつくる、「地下生菌」と呼ばれる菌類の一つです。狭義には、子囊菌門のセイヨウショウロ属 *Tuber* に含まれるきのこを指します。トリュフは成熟すると特有の香気を出し、それにおびき寄せられた昆虫や哺乳類等に食べられることで、内部の胞子を遠くへ運んでもらっていると考えられています。欧米ではこの生態を利用し、訓練された豚や犬に地中のトリュフを探し出してもらい収穫する方法が用いられてきました(図1)。

トリュフは特にヨーロッパにおいて高級食材として珍重されてきました。白トリュフを代表する *Tuber magnatum* はイタリアやクロアチア等が主な産地で、トリュフ類の中でも特に高値で取引され



図1. トリュフ犬を利用したトリュフの採集の様子。イタリア、ラクイラにて。



図2. サマートリュフ *Tuber aestivum* の子実体。断面の大理石模様がトリュフ類の大きな特徴。イタリア、ラクイラにて。スケール: 2 cm。

ます。ヨーロッパ産黒トリュフとして代表的なものには、ペリゴールトリュフ *T. melanosporum* やサマートリュフ *T. aestivum* があります(図2)。

中国の黒トリュフ

一方、ここ30年ほどの間にトリュフの新たな世界的産地として台頭してきたのが中国です。中国では、黒トリュフの一種であるアジアクロセイヨウショウロ *T. himalayense* と *T. indicum* を国外へ大量に輸出しており、1997年から2013年にかけては日本におけるトリュフ類の輸入量世界第1位でした。しかし近年では輸入量がやや減少し、現在はイタリアに次ぐ第2位となっています(東京税関, 2016; 財務省貿易統計, 2025年6月11日閲覧)。これは中国産トリュフの主な取引市場が日本から欧州に移ったことに加え、乱獲により発生環境が荒らされ、中国でのトリュフの収穫量が著しく減少したことが要因のようです(折原, 2025)。

中国産の黒トリュフが世界中に輸出されるようになった理由の一つが、見た目はヨーロッパ産とそっくりなのに、非常に安価である点です。比較する種が同一ではないため厳密な比較はできませんが、中国産黒トリュフの価格は、ヨーロッパの主要なトリュフ輸出国であるイタリア、フランス、スペインのトリュフと比べ、キロ単価にしておおむね10～15分の1となっています(財務省貿易統計; 折原, 2025)。ただし、中国産黒トリュフは品質のばらつきが大きく、生鮮品か冷凍品か、成熟の度合いなどによって価格にはかなりの差があります。

日本に自生するトリュフ

実は、中国だけでなく、日本にも多様なトリュフの仲間(セイヨウショウロ属菌)が分布しています。その数は少なくとも20種以上と推定されており、色、形、大きさなども様々です(図3; Kinoshita *et al.*, 2011)。2010年代以降、国内から複数のトリュフの新種が記載され、その多様性の全貌が明らかになりつつあります。中国でも近年多数のトリュフの新

種が記載されています。私たちにとってトリュフは西洋のもの、というイメージが強いですが、実は種の多様性の中心は、むしろ日本や中国といった東アジアにあるようです。

当館のある神奈川県小田原市入生田でも、特別なトリュフが見つかっています(図4)。2021年に新種として記載されたキチャセイヨウショウロ *T. iryudaense* は、長い間当館周辺が唯一の産地でした。そのことにちなんで、本種には「入生田の」という意味である“*iryudaense*”という学名が付けられました(Kinoshita *et al.*, 2021)。最近になって、本種の第二の産地が報告されました(折原・久高, 2024)、それでも本種が世界的に希少なトリュフであることは間違いありません。

また、国産トリュフの栽培の試みも進んでいます。日本に分布する黒トリュフであるアジアクロセイヨウショウロとイボセイヨウショウロ *T. longispinosum*、及び白色トリュフのホンセイヨウショウロ *T. japonicum* を対象に栽培化の研究が行われています(図3A、B)。トリュフの仲間はブナ科やマツ科など特定の樹木の根に外生菌根と呼ばれる構造を作り、互いに養分を補いあって共生しています。そのため、栽培とは言っても、野外で植栽した樹木にトリュフの菌糸を人工的に感染させることで栽培を行います。近い将来、栽培された国産トリュフがお店に出回る日が来るかもしれません。

国産トリュフをめぐる問題と課題

国産トリュフの存在が徐々に一般にも知られるようになるにつれ、それらをめぐる問題や課題も生じています。国内でも比較的身近な環境に発生するトリュフが、上述した黒トリュフの類ですが、これらを過度に乱獲し、その際に発生環境を荒らしてしまう事例が神奈川県内でも確認されるようになりました。中には、大量に収穫したトリュフをインターネット上の個人売買サイトで法外ともいえる高値で取引する事例も見られます。このような行為を野放しにしておけば、トリュフの生育環境が悪化し、発生量の減少、

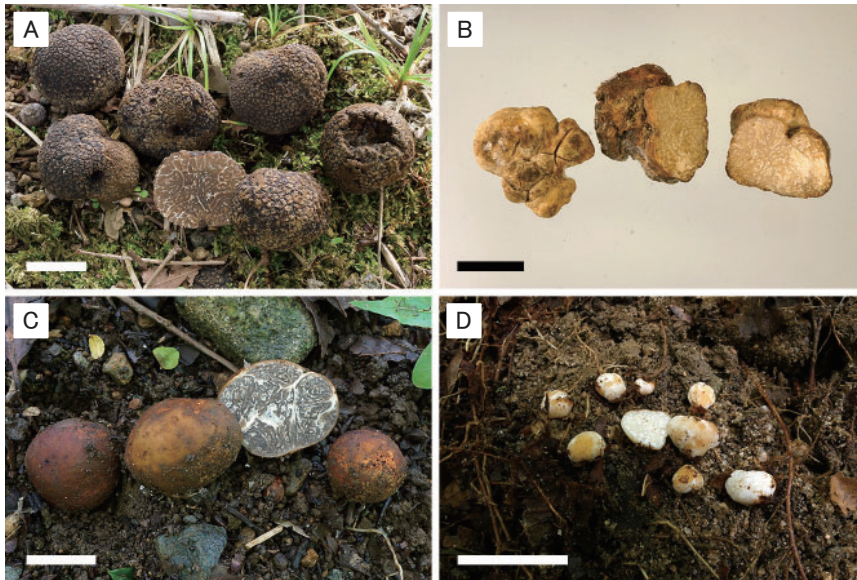


図3. 日本でみられるトリュフの例. A: イボセイヨウショウロ *Tuber longispermum*, B: ホンセイヨウショウロ *T. japonicum*, C: チャセイヨウショウロ *T. tomentosum*, D: セイヨウショウロ属プベルールムグループの一種 *Tuber* “sp. 18” (*Puberulum* group; in Kinoshita *et al.*, 2011). スケール: 2 cm.

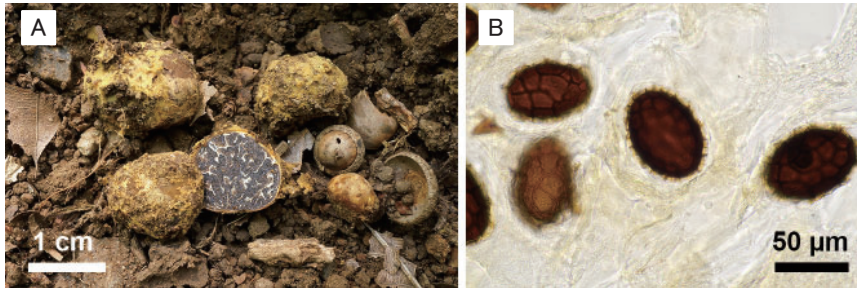


図4. キチャセイヨウショウロ *Tuber iryudaense*. A: 子実体, B: 子嚢胞子. きのご類の中でも特に大型の胞子をつくる.

ひいては研究途上である日本のトリュフ類の基礎研究に悪影響を及ぼすことも懸念されます。日本でもトリュフ類の発生環境が維持され、私たちが末永くその恩恵にあずかれるよう、トリュフ採集の際の「採集リテラシー」の向上が必要とされています。以下に採集時に心がけるべきポイントを示しておきます。

1. 日本産トリュフはヨーロッパ産の高値で流通しているトリュフとは別種である—日本産の黒トリュフは中国産の黒トリュフと同種または極めて近縁な種で、ヨーロッパ産のペリゴールトリュフやサマートリュフとは全く異なる種です(においも異なります)。それゆえ、生物学的な観点からは、取引価格も中国産の黒トリュフを基準として決められるのが妥当といえます。

2. きのご採取禁止の場所では採らない—採取にあたっては関連法令や各自治体の条例を遵守し、土地所有者の承諾を

得るようにし、きのご類採取禁止の場所での採取は絶対にはいけません。

3. 未熟な時期にむやみに採らない—食用目的でトリュフを採集する場合、他の採取者に先を越されまいと、たとえ未熟な子実体であっても欲張って採集してしまいがちです。採集後もある程度であれば追熟できますが、未熟なものはにおいもほぼ感じられず、食用に適しません。日本産の黒トリュフが成熟するのは晩秋から初冬にかけてです。それより早い時期の採取は控えることがとても重要です。

4. 必要数以上に採らない—トリュフの仲間はしばしば複数の子実体がまとまって生えます。そのような場合はすべて採り尽くさず、たとえ少数でも残しておきましょう。同じ場所から発生した子実体は同一個体、異なる場所の子実体は別個体である可能性が高いと言えます。そのため、一地点の子実体を採り尽くさ

ないことが、トリュフの遺伝的多様性の維持に繋がります。

5. 採集する際には、発生環境に極力ダメージを与えないよう配慮する—トリュフをはじめとする地下生菌の採集には、レーキ(熊手)を用いるのが一般的です。訓練されたトリュフ犬であればピンポイントで地中のトリュフを捜し出せますが、人力で採集する場合は、より広範囲に渡りレーキを使って探索することになります。その際に土を深く掘り起こしてしまうと、地中に広がるトリュフの菌糸や菌根にダメージを与えてしまい、子実体の発生に悪影響を及ぼしかねません。そのため、探索の際には落ち葉や表土をレーキで掻き分ける程度に留めましょう(その方法でも十分に採集可能です)。また、採取後は落ち葉や土を元の状態に戻すことも重要です。景観上のトラブル防止だけでなく、地中のトリュフの菌糸や菌根が乾燥してしまうのを防げます。

以上の留意点は折原(2025)を基に本記事向けに再整理したものです。特に日本の黒トリュフは、造園地など、過去に人の手の入った身近な環境のブナ科樹木の周りを好む傾向があります。上記の点を採集の際の心得として、トリュフ探しに挑戦してみるのも一興かもしれません。

引用文献

- 東京税関, 2016. トリュフの輸入. 6 pp., 東京税関, 東京. Online: <https://www.customs.go.jp/tokyo/content/toku2810.pdf>(参照 2023-12-06).
- Kinoshita A., H. Sasaki & K. Nara, 2011. Phylogeny and diversity of Japanese truffles (*Tuber* spp.) inferred from sequences of four nuclear loci. *Mycologia* 103: 779-794.
- Kinoshita A., H. Sasaki, T. Orihara, *et al.*, 2021. *Tuber iryudaense* and *T. tomentosum*: Two new truffles encased in tomentose mycelium from Japan. *Mycologia* 113(3): 653-663.
- 折原 貴道, 2025. 国産トリュフ類の基礎知識及び採集の指針. *Truffology* 8: 15-18.
- 折原 貴道・久高 充, 2024. キチャセイヨウショウロ *Tuber iryudaense* のタイプ産地に続く新産地. *Truffology* 7: 9-11.
- 財務省貿易統計ウェブサイト. Online: <https://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm>(参照 2025-06-11).

西湘高校寄贈標本に秘められたストーリー

いしだ ゆうこ
石田 祐子(学芸員)

さく葉^{よう}標本は、押し花の延長で作ることができるので初心者でも比較的始めやすいと思います。実際、昭和の時代は中学校・高等学校生物部でさく葉標本を作製していた例がしばしばあり、そのような標本の寄贈の話が来ることがあります。今回は、小田原市内にある県立西湘高等学校(以下、西湘高校)からの寄贈標本とそれにまつわるエピソードを紹介したいと思います。本エピソードを機に、標本作りに興味を持ってくださる方がいれば是非著者までご連絡ください。

標本を採集した人物は誰か？

ある日、西湘高校から標本寄贈の話が来ました。昭和初期から1960年代の標本が中心であり、状態は比較的良さそうでした。昭和初期の標本は高山植物が中心であり、オリジナルラベルにはローマ字で「Takeo Bou」と書かれていま

した(図1)。**Takeo Bou**さんは誰だろう…と、最初は、首をかしげていました。地元のことは地元の人に聞いてみよう、博物館のボランティアさんに聞いてみたところ、西湘高校の校長先生だったはずという情報が入りました。確認のため、西湘高校にお伺いして、校長室で歴代校長の写真を拝見したところ、2代目校長が坊 猛雄^{ぼう たけお}氏だったことが分かりました。また、初代校長は、大谷 弘氏で、横須賀市博物館の学芸員をされていた大谷 茂氏のご兄弟ということも分かりました。

坊 猛雄氏の標本は、古いものは1929年に採集されています。採集年月日を見ると、「2601.8.21」と書かれた標本がありました。この採集年は、皇紀^{こうき}で書かれたと思われます。皇紀とは、日本書紀の記述で神武天皇即位の年(西暦紀元前660年)を元年とする紀元です。皇紀2601年は西暦1941年にあたります。当時、日本は日中戦争の最中で、この標本が採集された1941年12月には太平洋戦争に拡大します。採集年の表記をみると、「1935」から「2601」のように飛んでおり、戦時中に採集年の表記を西暦から皇紀にしていたことが窺^{うかが}えます。

西湘高校生物部の活動

1960年代の標本には、採集者名に「生物部」と書かれている標本がありました。また、寄贈された標本には、変化朝顔(後述)の標本があることも特徴的でした。

西湘高校生物部の活動は、地域の標本を残すという自然誌の根底を支える活動を行っており、高校周辺で採集された植物には、オグルマなどの湿地や水田で見られるものが含まれていました。過去の空中写真を確認すると、現在は宅地化が進んでいる西湘高校周辺ですが、1960年代までは水田が広がっていたことがわかります。今回の寄贈標本から、西湘高校周辺の水田環境に豊かな湿生植物相があったことを知ることができます。また、標本の中には、過去に分布が確認されているものの、現在は確認が途絶えている種がありました。例えば、ナガサキシダは『神奈川県レッド

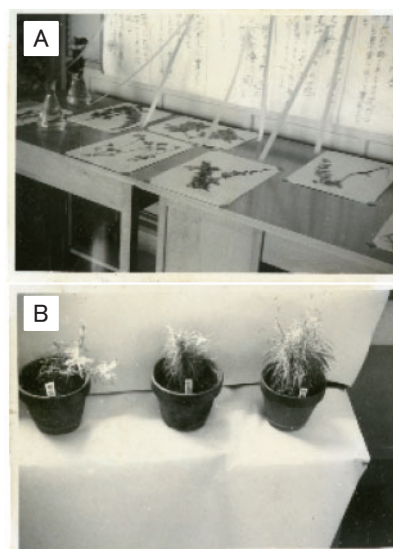


図2. 1962年(昭和37年)の西湘高校文化祭の生物部の展示の様子。A: さく葉標本, B: 変化朝顔の鉢植え。松岡輝宏撮影。

データブック2022 植物編』で絶滅危惧IB類に選定されていますが、湯河原町で1961年に採集された標本が、寄贈標本に含まれていました。湯河原町のナガサキシダは、1980年代を最後に確認が途絶えています。

生物部は、日々の活動はもちろんですが、栽培している変化朝顔や、作製したさく葉標本を文化祭で展示する等活発に活動していたそうです(図2)。

変化朝顔の栽培

変化朝顔とは、皆さんお馴染みのアサガオの花や葉の形態が少し変わった形をしているものです(図3)。どうして西湘高校の寄贈標本の中に変化朝顔のコレクションがあるのか分からなかったためボランティアさんに聞いてみたところ、実際に標本を作ったご本人ということがわかり、変化朝顔の標本のことを教えて下さいました。

当時の生物部では、変化朝顔を栽培しメンデルの遺伝の法則を体感するとともに、標本作製していたそうです。

変化朝顔では、メンデルの発見した遺伝の法則に従い、花の形質が現れます(図4)。花が変化する株の多くは^{ふねん}不稔(種子ができない)で、「出物」と

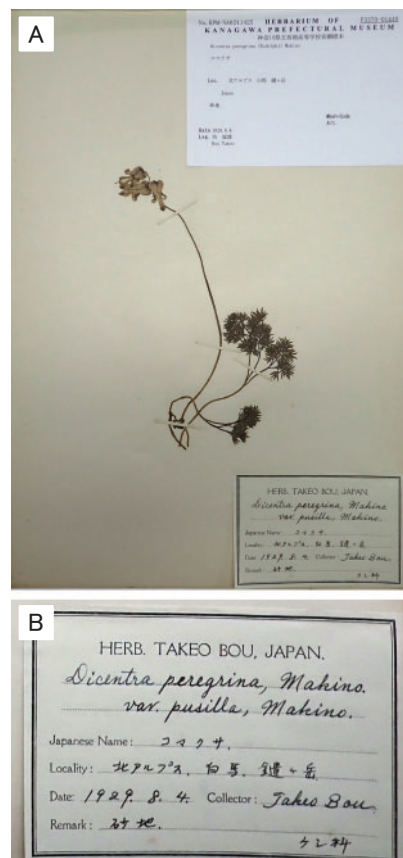


図1. 1929年に採集されたコマクサのさく葉標本(KPM-NA0241425)。A: 全体, B: オリジナルラベル。



図3. 花や葉が多様な形質を示す変化朝顔. 石田祐子撮影.

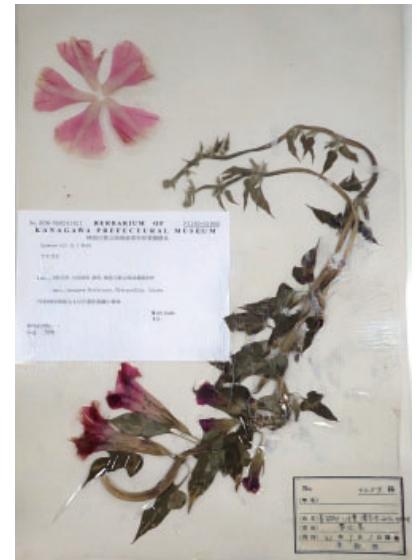


図6. 変化朝顔のさく葉標本 (KPM-NA 241421). 花は切咲で茎は帯化している (帯のように太くなっている).

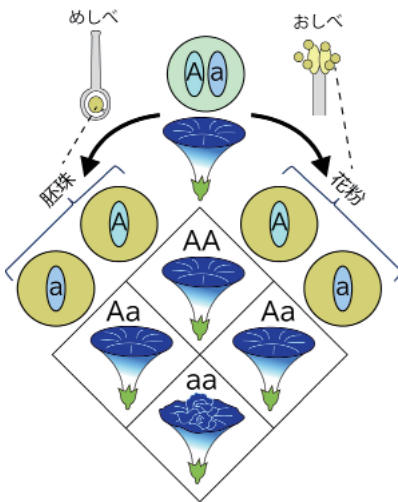


図4. メンデルの遺伝の法則に沿った変化朝顔の花の遺伝。「出物」は、aaの組合せでしか形質が現れない。

呼ばれています。このため、遺伝子に「出物」の変異を隠し持った「親木」の種子を撒いて、その中から生じる「出物」を見分けて選ぶというやり方で受け継がなければなりません。図5のように、遺伝子に「出物」の変異を隠し持ったAaの個体の種を撒き、出物が出る親木を選抜し(この作業を「仕分け」と言う)、「出物」を維持していきます。アサガオは、自家受粉の(一つの花の中のおしべの花粉がめしべにつく)仕組みをもっています。このため、自家受粉をさせることで確実に親の遺伝子を受け継いだ種子を作ることができます。

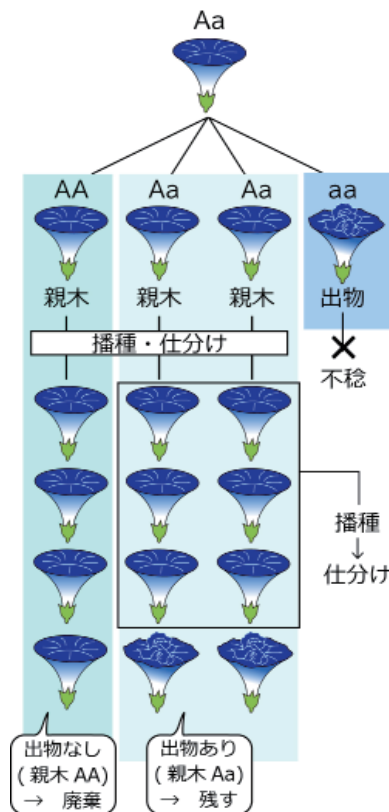


図5. 自家受粉による遺伝と「出物」維持のための仕分け。

当時の西湘高校では、変化朝顔の種子を三島市にある国立遺伝学研究所から分けてもらい、生物部で栽培していたそうです。花が咲きそうなつぼみを、ビニールチューブを切ったものでキャップすることで、花を開かせず自家

受粉をさせていました。その種子を撒き、子葉や花を確認して、種取り用に残す親木を選別して種子を維持していました。また、その花や葉をさく葉標本として残していました(図6)。

このように、西湘高校では、自分自身や兄弟がさく葉標本作製していた校長先生と、熱心な生物教員がいたこと、そこに興味をもち生物部の活動を盛り立てた生徒がいたことが窺えます。このような流れの中で、西湘高校の一室に標本庫をつくる活動が行われたようです。タイムカプセルのように半世紀以上の時を経て、西湘高校から博物館へ寄贈された、たくさんの人の思いのこもったこれらの標本を大切にしていきたいと思います。

謝辞

標本の寄贈等でお世話になった神奈川県立西湘高等学校の皆様と、写真提供等をいただきました松岡輝宏氏に感謝申し上げます。

参考文献

仁田坂英二, 2014. 変化朝顔図鑑 アサガオとは思えない珍花奇葉の世界. pp. 112. 化学同人, 京都.

催し物のご案内

特別展 「初三郎式、かながわの描き方 — 地形表現の科学 —」

2025年7月19日(土)～11月9日(日) 9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日: 9月1日(月)・8日(月)・9日(火)・16日(火)・22日(月)・
24日(水)・29日(月)・10月6日(月)・14日(火)・15日(水)・
20日(月)・27日(月)・11月4日(火)

吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」など大正から昭和初期に描かれた鳥瞰図は、名所旧跡の外観等を挿し絵で描くだけでなく、立地している地形を立体的に表現していることが見どころです。これらが生み出された時代背景を人文科学的、地形表現を自然科学的のアプローチで迫ります。



催し物の詳細や最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式X(旧Twitter)でご確認ください。

生命の星



【公式ウェブサイト】<https://nh.kanagawa-museum.jp/>
【公式 X】@seimeinohoshiPR 【混雑情報 X】@seimeinohoshiCI
【問合せ先】企画情報部 企画普及課 TEL: 0465-21-1515

ライブラリー通信

「日本古書通信」が終わってしまう!!

つちや さだお
土屋 定夫(司書)

1934年(昭和9年)1月に創刊された「日本古書通信」は当初、古書市場の落札相場速報を主とする業界誌でしたが、1937年からは書物趣味誌となり現在に至っています。

太平洋戦争による中断もありましたが1947年に復刊。古書に関する随筆・研究の他、各地の古書店の販売目録を掲載して、多くの古書ファンや図書館、研究機関にも喜ばれてきました。私も長年の購読者の一人です。

ところが、今年の3月号に突如、本年の12月号をもって終刊するとの告知が掲載されたのです。寝耳に水状態でした。告知には、上記のような歴史やインターネットの普及により古書目録の掲載店や定期購読者の減少が続き、ついに刊行の継続が困難となってしまったことなどが綴られていました。

この雑誌は、時代も分野も問わず書物に関する様々なものを取り上げてきました。世の中には、いろいろなことを調べている人たちがこんなにもいるのかと驚かされ、さらに刺激ももらいました。

ライブラリーの業務上では、特殊文献の紹介コーナーが役立ちました。編集部宛に送られてくる出版物の中から、毎号5～6点が紹介されるのですが、一般には流通しない文献等もあり、希望者のために発行元の住所まで記載されていて大変重宝しました。

図書に関わりを持ってきた者としても終刊は痛恨の極みと言わざるを得ません。非常に残念ではありますが、いずれ不死鳥のように再度復刊されることを願いつつ、この不世出の雑誌の90年間の歴史に感謝とお別れを伝えたいと思います。

ありがとう そして また会える日までさようなら



日本古書通信社 2012年
通巻1000号

《 事前申し込みの講座 》

詳細は、博物館ウェブサイトや催物案内をご覧ください。

- 植物図鑑の使い方～樹木編～[博物館および館周辺]
日時/10月18日(土) 10:00～15:00
対象/小学4年生～成人・教員 24人
※小学生は保護者参加必須、
その場合は幼児連れ可。
申込締切:10月7日(火)
- 地形地質と鳥瞰図の観察会 横浜・桜木町[横浜市]
日時/10月18日(土) 10:00～15:00 ※雨天中止
対象/中学生～成人 25人
申込締切:10月7日(火)
- 本当は怖いアメリカザリガニ
～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～[川崎市]
日時/10月19日(日) 9:30～14:00 ※雨天中止
対象/小学3年生～成人 20人
※小学生は保護者参加必須
申込締切:10月7日(火)
- 小田原景勝鳥瞰図に描かれた建造物の石材の見学会[小田原市]
日時/11月2日(日) 13:00～15:00 ※雨天・荒天中止
対象/小学4年生～成人 30人
※小学生は保護者参加必須
申込締切:10月21日(火)
- はっぱであそぼう[博物館]
日時/11月9日(日) 13:30～14:30
対象/5～6歳の子どもとその保護者 8組最大24人
※保護者参加必須
申込締切:10月28日(火)
- 貝殻のふしぎを調べよう
①ホタテ[小田原市] ②アサリ[横浜市] ③巻貝[横浜市]
①日 時/11月 9日(日) 10:00～15:30
申込締切/10月28日(火)
②日 時/11月16日(日) 10:00～15:30
申込締切/11月 4日(火)
③日 時/11月23日(日) 10:00～15:30
申込締切/11月11日(火)
※室内講座です。また、連続講座ではありません。
対象/小学4年生～成人 18人
※小学生は保護者参加必須
- クジラ・イルカの形態学 鯨類の“かたち”に注目[博物館]
日時/11月15日(土) 13:30～15:30
対象/高校生～成人 10人
申込締切:11月4日(火)
- 鳥類標本作製講座[博物館]
日時/12月6日(土)・7日(日) 9:30～16:00
※2日間の参加が条件です。
対象/大学生～成人 10人
申込締切:11月25日(火)
- もっと魚を知りたい人のための魚類学講座[博物館]
日時/2026年1月10日(土)・11日(日) 9:30～16:00
※2日間の参加が条件です。
対象/小学5年生～成人 15人
※小学生は保護者参加必須
申込締切:12月23日(火)

自然科学のとびら

第31巻3号(通巻120号)

2025年9月15日発行

発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 田中 徳久

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846

編集 本杉 弥生(企画普及課)

印刷 株式会社あしがら印刷

© 2025 by the Kanagawa Prefectural Museum of
Natural History.